

緑が丘の台地にて

甲斐市立双葉中学校
学校だより 第 8号
平成28年 9月27日
発行 長田 靖

第53回誠樹祭「奏」

見せた！ ‘チーム双中’ の底力！！

「奏」～仲間と共に創れ！戦え！響かせろ！～ のテーマのもと、第53回双葉中学校学園祭「誠樹祭」は、天候に恵まれた9月16日（金）・17日（土）の両日に渡って実施され、大成功の内に幕を閉じました。この2日間、生徒たちはいろいろな場面で‘チーム双中’のスピリットを存分に発揮したと思います。

448人もの若者が本気になって取り組んだなら、こんなに素晴らしい学園祭を創り出せるということを示してくれました。まさに、テーマの「奏…成し遂げる」そのものでした。そのことは保護者やご来賓、地域の方々も感じ取ってくださったと自負しています。

この1週間、各学級や学年から出された通信には、子どもたちの活躍の様子や担任でしか知り得ないようなエピソードも紹介されていました。そちらにも、ぜひ目を通してください！

9月16日（金）1日目

全校生徒の手による壁画の披露、学級旗に込めた思いの発表、生徒会本部による工夫を凝らした開祭セレモニーなど、素晴らしい2日間を期待させる開祭式でした。

自由をテーマにした1年生演劇「夢屋」、命の尊さを考えさせる2年生演劇「グッドバイマイ」、今年も全校参加型の発表をした科学部、3年生が最後のステージとなった吹奏楽部、各クラスの個性を生かした3年生の学級演劇などのステージ発表の他にも、体育館の壁面を飾った装飾やポスター、学級旗が雰囲気盛り上げました。

また、武道館では修学旅行記、校外学習や職場見学などの記録が展示されていました。じっくり時間をかけて見たかった力作揃いでした。

下に、講評を担当された先生方のコメントを載せます。

■オープニングのパフォーマンスで観ている人を引き込みました。1年生は役者の声が大きく、はっきりしていて、ぐいぐい引き込まれました。背景や大道具などが、自由の国をとて楽しそうに作りあげていました。最後の合唱も心がこもっていて、全員で作った素晴らしい発表でした。来年がさらに楽しみです。 <U田先生>

■キャストの人達がたくさんの台詞を覚え、演じていたことが立派。舞台の中央で真正面を向いた演技は、観る人に意味を伝えるのに良かったと思います。背景や衣装など、目立たないけれど劇を支える人のがんばりも伝わってきました。緑、桃子、青太、黄郎の決断から学んだ2年生のこれからの期待します。 <O石先生>

■3年生はどのクラスも個性豊かで、役者の力を最大に出し切り、笑いあり、考えさせられる場面ありと最後まで目が離せなかった。クラスごとで人数が少ない中で仕上げる場所は、さすがに3年生。力を見せつけてくれた。ダンスや映像などの演出も細かなところまで考えてあって、楽しく見させてもらうことができた。 <O野先生>

■（科学部）音楽を使っのブーメランのパフォーマンスに始まり、県内研修の報告発表、生徒や先生が参加するおもしろ実験と、工夫されていてとても素晴らしかったです。（吹奏楽部）Last Stageと銘打った、今日で部活を引退する3年生との最後の演奏でした。オリジナルのTシャツや曲に合わせた小物などの演出もあり、あっという間の25分間でした。 <S本教頭先生>

9月17日(土) 2日目

暑くもなく寒くもなく、また土埃もたたく、薄曇りで迎えた2日目の体育部門。若者らしいエネルギーが校庭に溢れていました。事前の準備、練習は必ずしも十分ではありませんでしたが、そこは持ち前の元気と仲間を思いやる気持ちでしっかりとカバーしていましたね。

長縄や各学年競技(1年生:背中渡り, 2年生:障害物リレー, 3年生:チョット待つTire), 縦割り種目のお助け綱引き, 学級対抗全員リレー, ムカデ競走..., どの競技にも全力で取り組んでいました。私は開会式の中で、「競技(競走)だから、トップもあればビリもある。でもそれはほんのちょっとした差でしかない。力を出し切る、一生懸命にやる、最後まであきらめずに取り組むことに価値がある」という話をしました。結果に喜び合う顔、悔しさで流す涙、トップから離されても懸命に走る姿、苦勞してゴールした仲間を称える拍手や声..., 見ていて熱いものがこみ上げてきました。真剣に生きている若者の姿がそこにありました。

伝統になっている全校ソーランは、今年も素晴らしい出来でした。昨年までの発表に負けないうようにと、声をからしてリードした委員長のNさんをはじめとする実行委員の活躍もたいへん見事なものでした。

そして、多少のドタバタはあったものの、名残を惜しみつつ声と心を合わせて賑やかなフィナーレとなった閉祭式。感動の余韻を残しながら、誠樹祭が幕を閉じました。

事前の企画と当日の運営を通して、誠樹祭を大成功に導いた生徒会本部や各実行委員会のリーダー達、そして最後の誠樹祭を最高のものにしようと渾身の力をこめて見せた3年生を讃えたいと思います。2年生と1年生は伝統をしっかりと受け継ぎ、今年以上に発展させていってほしいです。全校生徒が誠樹祭で得たものを自分の中で成長させ、これからの生活に生かしていくことを願っています。

参観と応援をありがとうございました

保護者やご来賓、地域の皆さまなど、2日間で延べ420人を超える方々がお越しくださり、生徒・職員共々、たいへん励みになりました。お忙しい中を本当にありがとうございました。たくさんの感想と励ましのメッセージをお寄せいただきました。全て紹介できないのが残念であり、また申し訳ないのですが、いくつか紹介致します。

- ◆都合で全部を参観できませんでしたが、我が子の「今年が一番楽しかった」の一言で、本当に充実した2日間を過ごせたんだなあと感じました。先生方、一緒に過ごす仲間の皆様に感謝致します。 <母>
- ◆全校でのソーランは壮大で、感動しました。学園祭の雰囲気を感じることができ、私も中学生だった頃を思い出し、若返ることができた2日間でした。 <母>
- ◆リレーの時、青いTシャツを着た先生が、何回も何回も子どもに寄り添い走る姿が印象的でした。生徒と先生が作りあげた2日間を見て、私共もまた新たな気持ちで子どもに向かえる思いがします。 <父, 母>
- ◆子どものような大人のような体型の1年生が走ったり、踊ったりする姿にほほえましくなりました。我が子も双葉中の卒業生、その時も見に来たことがあります。また、来年も来ま〜す。 <祖母>
- ◆子どもたちが本気で取り組む姿を見て、心揺さぶられました。反抗期の息子と話すことも少なくなりましたが、体育部門のDVDと一緒に見て、久しぶりに会話が弾みました。 <母>
- ◆生徒会長のあいさつで、「負けたけれど、今までで一番楽しかった。仲間の大切さを強く感じる事ができた」とありました。とても印象深く残り、すがすがしい感動をもらいました。 <母>
- ◆子どもたちが協力してがんばっている姿に感動しました。また、先生方がクラスカラーのTシャツを着て子どもたちを励ましている姿に、親として感謝の気持ちでいっぱいになりました。 <母>
- ◆当日より、当日に向かって取り組む姿が誠樹祭だったと思います。その様子も通信で伝えていただき、感謝しています。子どもは目立った活躍ではないけれど、「協力する姿」を感じることができました。 <母>
- ◆リレーやムカデ競走で、一番最後になったクラスの子達に自然に駆け寄り、「頑張れ！」と大きな声で応援する友達がたくさんいて、素晴らしいな...と感動しました。 <母>